

# 令和元年度第1回栗東市地域包括支援センター地域密着型サービス運営協議会 会議録要旨

- 日時 令和元年（2019年）7月18日（木曜日） 午後3時00分～午後5時00分
- 場所 栗東市役所4階 第3・4委員会室
- 出席者 堀委員、稗田委員、渡邊委員、市木委員、富永委員、船元委員、宮武委員、竹村委員、安井委員、村山委員、青木委員
- 事務局 副市長、福祉部長、長寿福祉課長、他3名
- 欠席者 松浦委員

## 1. 開会

## 2. 市民憲章の唱和

## 3. あいさつ

栗東市副市長

## 4. 委員委嘱

委員の任期満了に伴う改選。委嘱状の交付  
再任7人、新任5人の計12名の委員をもって組織する。

## 5. 委員紹介

## 6. 会長・副会長の選出について

互選により堀委員を会長に、市木委員を副会長に選出

## 7. 協議事項

### (1) 地域密着型サービス事業について

事務局が資料にそって説明

- ①地域密着型サービス事業所の運営状況 <資料1>
- ②第7期介護保険事業計画実績報告 <資料2>

委員：高齢化率の計画値に対して実績値はほぼ計画値どおり、認定者数は、計画値に対して93%と落ちているが、認定者数が減っているのかそれとも申請自体が減っているのか。

事務局：計画では申請者数を計画値としてあげている訳ではないが、認定審査の結果、却下（非該当）となっている人がそんなに多くないことから、認定者数自体は申請されることを含めて減っていると思われる。

委員：重度、軽度の割合について、この資料では重度のほうが43%ぐらいと増えているようだが、わたしたちケアマネジャーの感覚だと軽度1・2の方が増えているように感じる。

事務局：施設に入っている方もこの中にはおられるため、在宅で療養されている方の数字と同じではないと考えている。

委員：居宅療養管理指導の利用者については、利用人数は多くないと思うが、どういった項目が多い傾向にあるのか？例えば、医師が多いとか、歯科医師や管理栄養士など。また、複数利用されている方もいるのか。

事務局：そこまでは把握できていない。次回、情報提供できるようにしたい。

委員：栗東市は、介護予防が上手く回ってきていると聞いている。この湖南圏域ではどうなのか状況を聞きたかった。

(2) 地域包括支援センター運営について

事務局が資料にそって説明

- ① 栗東市地域包括支援センター設置状況 <資料 3>  
地域包括支援センター委託について
- ② 平成 30 年度事業実績報告 <資料 4>  
各地域包括支援センターの事業実績報告
- ③ 平成31年度栗東市地域包括支援センター運営方針 <資料 5>
- ④ 令和元年度栗東市地域包括支援センター事業計画 <資料 6>
- ⑤ 介護予防・介護予防ケアマネジメント 委託事業所一覧 <資料 7>
- ⑥ 令和元年度栗東市地域包括支援センター運営協議会 年間計画 <資料 8>

委員 : これまでから、地域包括支援センターとは様々な形で、連携して取り組んできました。

7 月から各中学校区別に地域包括支援センターが設置された。

民生委員児童委員協議会としても、今後も地域包括支援センターと連携しながら一緒に取り組んでいきたい。  
運営方針にもあるように、安心させられる福祉を推進する、実現するためにも様々な職種とも連携しながら民生委員との連携もお願いしたい。

事務局: よろしくお願ひします。

委員 : 高齢化が進んでいる中で、虐待や生活困窮など色んな課題をお持ちの方の相談が入ってくると思う。

地域包括支援センターだけでは解決が難しいケースもあると思う。

委託先の包括だけで取り組むのは負担が大きいと思う。市として、包括への支援など、今後どのように取り組んでいくのか。

事務局: 地域包括支援センターの連絡会議は毎月開催し、継続していく。

また、虐待ケースなど困難ケースについては、必ず地域包括支援センターと市で継続的に会議を開催しており、緊急の場合は直ぐに対応できるようにしている。市としては、地域包括支援センターの後方支援ができるよう、バックアップ体制を取っていきたいと考えている。

委員 : 年間計画の重点目標について、3 つの委託先包括の内容が同じになっているが、住んでいる場所によって、全く住民の方の地域性が違ってくると思う。また、地域の課題も全然違うのではないかと思うが、同じ目標になっているというのはなぜか。

事務局: 運営方針につきましては、市の全体的な方針で取組んでほしいということで上げている。

今後地域性や課題など把握した段階で、それに対して取り組んでいただくことになる。

これから 3 圏域が定着する中で、見えてくるものがあると思う。

あくまで方針なので、方針に基づいて地域の特性に応じてどう取組むかは、今後の課題。

委員 : 介護事業者の代表として参加している。

各地域包括支援センターは非常に忙しそうという印象を受けた。

実際包括の職員の方は、働きすぎていることが課題になっていないのか。

地域包括支援センターの活動内容を広く知らせることで、無駄な問い合わせをしなくなり、負担をかけるなどの課題も減るのではないかと思う。

事務局: 実質的に、全国的には地域包括支援センターの業務が多くなってきている。

今年度委託した、栗東及び栗東西の地域包括支援センターに対しては、国が示す基準よりも多く一人ずつ加配をしている。他市の状況も参考にしながら、この部分は手厚く取り組んでいる。今後の業務の中でどうにもならないということが出てくれば、市の方で協議をしていく。

委員 : 現状、業務量がたくさんというのは課題だったということか。

事務局:そうです。

委員 :薬剤師会の方でも、様々な活動をしている。地域包括ケアシステムを構築していくには、その地域地域で、多職種が集まり、その地域での顔が見える関係づくりが大切だと思う。

今後、各中学校区で地域包括支援センターが主導で、その地域での多職種連携に対する取組など、1年間に1回でもいいので、イベントみたいなもの実施していけたらいいと思う。

地域での力が集結できたらよい取り組みとなる。

初年度で大変なことがあると思うが、何年かかけて少しずつ回数を増やしていただけるとありがたいと思う。

事務局:確かに圏域毎で職種毎に集まることは、大事であると思う。

ただし、圏域ごとで多職種の代表者が集まってもすぐに地域包括ケアシステムが上手く回っていくわけではない。

今回の運営方針では、個別事業に重点を置き、個別事例を通して多職種できっちり連携し、参加した関係者が積み重ねるということを重点的にやっていきたいと思っている。

連携していく中で、課題が明確になってきた時に、検討できたらと考えている。

今いただいたご意見は、貴重ですので今後のこととして考えていきたい。

委員 :葉山地域包括支援センターの年間計画で、認知症に関して正しい理解の普及啓発を老人クラブや民生委員・サロンや業者、地域自治会などに出かけて行ってするようになっている。

サロンにも出かけていくとなると大変ではないか。

事務局:(葉山地域包括支援センター)

すでに、平成30年度から取り組んでいる。生活支援コーディネーターと連携を図りながら、1年間させていただいたという経緯があり、今後も支援していきたいと考えている。

委員 :今回、他の2圏域でも同じようなスタンスで取り組まれるということになれば、大変になるのではと思い質問した。

## 8 その他

事務局より、7期計画での、介護施設の整備について報告。

地域密着型サービス事業としての小規模多機能型居宅介護の整備について、報告したが、それ以外に7期計画では介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)を1施設整備する計画をたてている。

平成30年度に募集を行ったが、応募の申し出はあったものの、最終事業計画書の提出がなかったため、整備年度を1年ずらした。

令和2年度整備分として、再募集を平成30年度、今年3月に行ったところ、応募事業者がありその結果、令和元年6月に審査を行い、事業予定者として決定したことを報告する。

選定事業者としては、社会福祉法人しあわせ会。書面により1次審査やプレゼンテーションによる第2次審査により全ての審査員が全項目で基準点以上の採点であったため、整備事業者として選定した。

建設予定地としては、栗東市下鉤地先。

整備予定期間は令和2年4月から令和3年3月まで、開設予定時期としては、令和3年4月となっている。

建物構造は木造2階建て。計画定員は、80名のユニット型個室。ショートスティ20名を併設とし、合計100名の特別養護老人ホームの整備となる。

## 9. 閉会

副会長あいさつ

事務局あいさつ